

# 介護福祉士養成課程における新たな教育カリキュラム

【旧カリキュラム（2年課程の場合）】

| 科目名           |    | 時間数     |
|---------------|----|---------|
| 人間とその生活の理解    |    | 120時間   |
| 社会福祉概論        | 講義 | 60時間    |
| 老人福祉論         | 講義 | 60時間    |
| 障害者福祉論        | 講義 | 30時間    |
| リハビリテーション論    | 講義 | 30時間    |
| 社会福祉援助技術      | 講義 | 30時間    |
| 社会福祉援助技術演習    | 演習 | 30時間    |
| レクリエーション活動援助法 | 演習 | 60時間    |
| 老人・障害者の心理     | 講義 | 60時間    |
| 家政学概論         | 講義 | 60時間    |
| 家政学実習         | 実習 | 90時間    |
| 医学一般          | 講義 | 90時間    |
| 精神保健          | 講義 | 30時間    |
| 介護概論          | 講義 | 60時間    |
| 介護技術          | 演習 | 150時間   |
| 形態別介護技術       | 演習 | 150時間   |
| 介護実習          | 実習 | 450時間   |
| 介護実習指導        | 演習 | 90時間    |
| 合 計           |    | 1,650時間 |

【新カリキュラム（2年課程の場合）】

| 教育内容           |  | 時間数     |
|----------------|--|---------|
| 人間と社会          |  | 240時間   |
| 人間の尊厳と自立       |  | 30時間以上  |
| 人間関係とコミュニケーション |  | 30時間以上  |
| 社会の理解          |  | 60時間以上  |
| こころとからだのしくみ    |  | 300時間   |
| 発達と老化の理解       |  | 60時間    |
| 認知症の理解         |  | 60時間    |
| 障害の理解          |  | 60時間    |
| こころとからだのしくみ    |  | 120時間   |
| 介護             |  | 1,260時間 |
| 介護の基本          |  | 180時間   |
| コミュニケーション技術    |  | 60時間    |
| 生活支援技術         |  | 300時間   |
| 介護過程           |  | 150時間   |
| 介護総合演習         |  | 120時間   |
| 介護実習           |  | 450時間   |
| 合 計            |  | 1,800時間 |

平成21年4月より新カリキュラムへ移行

# 養成の目標

## 資格取得時の到達目標

1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける
2. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する
3. 介護実践の根拠を理解する
4. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる
5. 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる
6. 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる
7. 他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を養う
8. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常生活を送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける
9. 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける
10. 的確な記録・記述の方法を身につける
11. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける

## 資格取得時の介護福祉士

介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力

## 求められる介護福祉士像

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域(在宅)を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持